

技術委員会小委員会における検討内容

平成20年5月14日
新 潟 県

<設備健全性・耐震安全性に関する小委員会>

開催日	議題	主な意見
3月14日 (第1回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の調査・対策委員会等での検討概要について ・ 東京電力の調査・対策委員会等への報告事項と検討状況について ・ 小委員会における今後の検討の進め方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京電力は機器等が壊れなかった理由だけでなく、壊れたものについては、その理由をきちんと説明した方がよい。 ・ 原子炉等を設計した、メーカー担当者の意見を聞きたい。(今回の地震により加わった力を、原子炉等の設計思想に照らして考えた場合、運転再開以外の選択肢もあるのではないか。)
4月24日 (第2回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7号機の設備健全性に係る点検・評価の中間報告について(東京電力) ・ 設備健全性評価に係る東京電力の中間報告について(原子力安全・保安院) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想定を超える揺れにより塑性変形が生じている可能性がある。加わった力を計算で求めるだけでなく、実際に点検を行うことが大切であるが、点検が困難な場所の健全性を確認する方法が課題。 ・ 国の検査により、応力を計算するプログラムの間違いが見つかったとのことであるが、他のプログラムについても確認すべき。 ・ 変形があったかどうかを設備の実際の強度で確認することは間違いではないが、設計強度に対しても確認し、比較を示すことも必要。 ・ 設備に掛かった力の大きさだけでなく、金属疲労(ひずみ)・ねじれが生じていないかという観点で確認することも必要。
5月12日 (第3回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原子力発電所の耐震設計について(耐震設計従事者からの説明) ・ 第1回、第2回の質疑への回答について(東京電力) 	<p>【設計技術者の説明概要】 耐震設計における余裕の考え方等を説明した上で、今回の中越沖地震で想定を超える揺れを受けても、解析結果では、機器等に与える影響は設計時の余裕の範囲内であったとし、構造上に大きな問題はないとの見解が示された。</p> <p>【委員からの主なコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震で蓄積したひずみやマイクロな塑性変形の経年による影響も想定に入れた評価が必要。 ・ 耐震重要度の低い機器の損傷が、重要度の高い機器に波及する可能性を考慮した評価が必要。 ・ 点検困難な箇所については、応答解析等による健全性評価では不十分。

<地震、地質・地盤に関する小委員会>

日時	議題	主な意見
3月17日 (第1回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の調査・対策委員会等での検討概要について ・ 東京電力の調査・対策委員会等への報告事項と検討状況について ・ 小委員会における今後の検討の進め方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海底断層が「過小評価」された経緯や発電所敷地内の地殻変動について今後検証すべき。 ・ 今回の地震の震源域がある深い地層について、新たな調査を行うことも視野に入れ検討してほしい。 ・ 地質については、十分なデータを踏まえた上で、総合的に検討を行うべきである。
4月7日 (第2回)	<p>柏崎刈羽原子力発電所周辺の地質調査結果について (東京電力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠がはっきりしない断層評価が新聞に大きく取り上げられ県民に不安を与えている。事業者として根拠を明確にしきちんと反論すべき。 ・ 海域活断層の長さを、東電の評価より「長い」と評価している研究グループもあるので、その研究者から考えの説明を受け議論すべき。 ・ この地域の地震を想定する上で、活断層調査だけでは不十分。柏崎刈羽原発は変動地形のまっただ中にあり、地盤の隆起の調査なども含め、もっと大局的に考えるべき。
4月21日 (第3回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海域の地質調査結果について (東京電力) ・ 変動地形学の立場からの活断層解釈について (東洋大学渡辺教授) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海底の地形の連続性に注目すると、F-B断層は、東京電力の解釈よりも長くなる。 ・ 渡辺教授の主張する地形の部分に対する調査結果を見ると、元々段差があった箇所に土砂が堆積したと捉えることもでき、地形だけで断層の活動性を裏付ける証拠としては不十分。 ・ 活断層という言葉の定義があいまいで混乱している。地震動を予測するには、地下深部の評価が重要。 ・ 設置許可申請当時のデータと知見でもF-B断層を発見できたとする主張について、当時、そのようなことが行われたという論文などの証拠が残っておらず、本当にできたかどうかは疑問。